

正一位 坂稻荷神社

この坂稻荷神社は所澤神明社の倉稻魂命(うかのみたまのみこと)の御分霊をお祀りしています。古い記録が無いのでいつ頃建造されたかわかりませんが、元禄時代には書上帳にも掲載されておりますので、それ以前から鎮座されて居たと思われるます。

その頃より商売繁盛、五穀豊穡の「坂のお稻荷さま」として親しまれて来ました。なま「壁の覆殿の中にお宮があります。神明社にある蔵殿権現と同じ土蔵造りの神社はめずらしい造りで火災の多かつた所沢らしい」ことです。覆殿は屋根がトタン葺なので古くはありませんが中の社殿は約百九十年前の建築です。社殿の正面下部の羽根板に「永年の歳月の為、絵の具の色もさめています」「牡丹に唐獅子」の絵が描かれており、「天保八丁酉秋日 三上文釜」とあります。文釜は神社の隣の三上家(現在の御幸町一番十六)に生まれ、後に谷文晁の弟子となり、その作品は市内に幾つか残されております。

この絵は他の六面の装飾絵と共に平成三年所沢市の文化財に指定されました。又、昭和三十三年に市の文化財に指定された当神社所有の「武蔵野夜話」の著者である 斉藤鶴磯の約十米の長さの幟二旋があります。

正一位 坂稻荷大明神寛政十二年二月初午 野老澤村 斉藤鶴磯 敬書」と隷書で書かれております。

境内の水屋や狐の石造も坂上八番(日吉町、東町、旭町)坂下五番(御幸町)の人々により同年代に奉納され、石狐の台座には文釜の兄である三上庄兵衛の名前が彫ってあります。石の明神鳥居は近在の講中により文化5年に建立奉納されております。

寛政時代の将棋の名人 福泉藤吉(明和三年(1776年)も坂上で(現在の御幸町一番二十六)生まれしており、子供の頃は、この境内で遊び、長じてはお稻荷様のお加護により、その才能を発揮、全国に「所沢の藤吉」の名を広める事が出来たのでは無いかと思います。もう一人の東吉「所沢の東吉でも王手」にや逃げる」と言つ将棋の格言で知られる、大矢東吉は、文政九年(1826年) 所沢新田(所沢新町)に生まれおります。

戦前花柳界の盛んな頃はお客の足をとめる(足止の稻荷様)としても賑わい、又、寛政の大火事の時も神社の際で火が止まり、火防の神様と言われています

戦後、町内でも火災が頻発した時も、町内会で祈願した処その後大火がなくなりました。

昔は坂上、坂下として御守護してきましたが、明治の頃、稻荷様を境に御幸町、日吉町の町内会が出来以来両町内会で御守護してきました。そして昭和四十四年町内会の改組により、現在は東町も加わり、三町内が交代で毎年 三月中旬 初午祭を挙行しており、直会には御神酒を頂きながら町内会の杯を「え 親睦の和を深めております」